

## 春 祭 り

寒い冬が終わり春になると、町内各地で楽しい祭りが催もよおされます。

子どもから老人までが、にぎやかな太鼓たいこや鐘の音に気持ちはずみませんが、現在では、若者の人数が減ってきたため、祭りをいつまで続けられるか心配になっている地区もあります。

### 山路の「ふき出し」

昔は、この山路の近くまで湖がありました。明治の初め頃、かみなり勇三という石工いしいくがあり、高島郡の石切り場で働いているときに火薬の扱い方をおぼえ、山路へ渡ってきて、手筒てづつ花火を作ったものが現在まで傳承されたものだと言われています。

宵宮よみやの夜、若衆わかしゅが竹筒に火薬をつめて作った「ふき出し」に火をつけると、シューシューという音とともに火が吹き出します。若衆はそれを手に持ち境内けいだいで振り回すと、あたりは一面の炎につつまれ火の祭典となります。暗闇の中で「ふき出し」を持つ若衆が、火傷やけどをしないかと心配をさせますが、「ふき出し」がきれいに円を描くと、炎と一体となった若衆の勇ましさに魅了されます。

### 川原祭り

この祭りは、川南、阿弥陀堂、福堂、乙女浜、新宮西・東の各字が行う祭りです。福堂、乙女浜、新宮西・東は3年に1度の担番かきばん制になっています。

以前は、この他に彦根市側の田附・新海・本庄・三ツ谷などが参加して行われていましたが、現在は別々に行われています。

平成9年(1997)の神輿みこしの担番は、乙女浜でした。朝9時から区内を練り歩き、11時15分には神輿の置かれている阿弥陀堂を出発、堤防を降りて走り込みが行われます。その後、堤防をくだり栗見大宮神社に向かい、2度目の走り込みが行われます。この走り込みは、大きな神輿を祭の衣装で整えた大勢の若衆たちが勢いよく突進していくところが、砂煙すなけむりが舞い上がり力強さを感じさせられます。

### 伊庭の坂下し

坂下しは、神輿かづを担いで渡る祭りではなく、織山きぬがさやまの頂上から神輿を引きずり降りる勇壮な祭りです。

坂下しの道は、堅い岩が露呈している激しい急な坂道で、途中いくつかの難所なんしょがあります。標高差は170メートル、本殿より鳥居までの距離は約500メートルあり、歩いて降りるにも大変な険しい山道です。ですから、最初から最後まで気をゆるめることのできない祭りです。

坂下しの起源はいつ頃なのか、正確な記録は残されていませんが、大津坂本の日吉大社の祭りを写したと伝えられています。

や~とこせえ~  
ええ~よお~いやあな~  
あれわいさあ~  
これわいさあ~  
そおりや~よおいしいとおせ~



山路の「ふき出し」



川原祭り



伊庭の坂下し

## 花まつり

花まつりは、4月8日のお釈迦様の誕生を祝う仏事です。お釈迦様誕生のとき、竜が天からやってきて香湯をそそいだという話にもとづくもので、産湯にあたるとされています。

各お寺では、いろいろな草花で飾った花御堂を作り、中に灌仏桶を置いて甘茶をいれます。その中央に誕生仏を安置し、ひしゃくで甘茶をかけます。参拝者には甘茶がふるまわれ、甘茶で習字をすると上達するとか、害虫よけのまじないを作ったりします。

甘茶をかける子ども



## 涅槃会

旧暦2月15日の釈迦入滅の日に、釈迦の遺徳をしのんでつとめられる法会。この地方では3月15日頃につとめられています。

涅槃とはサンスクリットのニルバーナの音訳で、迷いのなくなった境地を言います。この法会には、クシナガラしゃら そうじゆの沙羅双樹のもとに横たわった釈迦を弟子たちや多くの動物がとり囲んで泣いている図柄の涅槃図を本尊として掲げます。

佐野の善勝寺、伊庭の妙楽寺には町指定文化財の涅槃図があります。（「わが町の文化財」参照）

## 系図詣

系図詣は伊庭妙楽寺を中心に行われている仏教行事です。

日時は8月11・12日の両日、早朝より行われます。門徒は各家に伝来している巻物の絵系図をもって参詣します。分家・新家などで系図のない場合は、本家と一緒に参詣します。よそへ嫁したり、都会に出ている、盆よりも系図詣に帰省し、参詣する場合があります。

一族がそろって参詣する場合には、まず日本坊の妙楽寺へ参詣し、系図を内陣と外陣との間に置かれた系図台の上に繰り広げ、読経中に焼香します。終われば系図を巻き納めて退出し、次いで各自の手次ぎの寺へ参詣し、同様に系図を広げ、読経中に焼香します。

参詣した人は「さる豆」をいただいて帰ります。「さる豆」はサヤエンドウの一種を塩ゆでにしたものです。なぜこの豆を使用するのかは不明ですが、「さる」に「去る」の意が掛けられていると思われます。

## ぼんなり

かつて、近江の広域にわたって行われていた「ぼんなり」が、いま伝承されているのは一部のところとなっています。

これは、「坊さん成り」の意味であり、世間をのがれ俗事との関わりを絶つことと言えます。しかし、完全な世捨人になるのではなく、儀式を受けた後も形の上ではいまままでと変わらない暮らしをおくります。

ぼんなりをされた人は、仏法一筋に生きる決意をし、村の人たちの規範となり尊敬される生き方をされています。



仏前にならぶ「ぼんなり」の人々

## 盆踊り

「よいとよーいやまか、どっこいさのせー」の掛け声にあわせた江州音頭は能登川における夏の風物詩の一つで、以前は駅前広場や南小学校の校庭などでも盛大に開催されていました。単純な振り付けは老若男女に受け入れられやすく、各地で催されていますが、昔ほどの人気



▲「水車のまち能登川 夏の祭典」  
(平成8年8月3日)



はないようです。平成8年(1996)8月3日には第24回中部地域びわ湖まつり「水車のまち能登川 夏の祭典」が当町で開催され、近隣の市町から3800人もの人々が集まり、大きな盆踊りの輪ができました。

また、当町には江州音頭を後世に永く継承保存することを目的とした「能登川町正調江州音頭保存会」があります。180名の会員が音頭教室・踊り方教室などを通じて活躍されています。



▲字の盆踊り(今)

## 地藏盆

これはふつう毎年8月24日に、各町内にある地藏堂で行われる行事で、子どもたちに関係の深いものです。永祚元年(989)「地藏観音像靈験記」による24日を地藏の日とするという信仰からきた行事ですが、町内会のイベントとして扱われている地区も多く、金魚すくいやスイカ割、ビンゴゲームなどをして楽しんでいるところもあります。



本町1丁目の地藏盆



種の地藏盆



栄町4丁目の地藏盆